

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



「朱竹」

真竹のように一途に

初代の心にかえり信仰の喜びを

深めよう 伝えよう 広げよう

- 一、持ち場立場で日々理作り
- 一、家族揃って教会参拝
- 一、一日一件にをいがけ

立教174年
6月号

温故知新

いきいきエピソード 4

二代会長の理の仕込み

どちらかというとき温かい情ですっぱりと包むように育ててくれた初代会長。その跡を承けて、二代会長は当時の教会の役員よぶくく自立した信仰が持てるように教理の仕込みをして

くれたと思われる。高知の教団の草創期に島村伊助は青春の一時期を兄である島村菊太郎氏を支えて高知の道の布教伝道に情熱を傾けて通っている。一時は高知県の東の外れ安芸郡馬路村へ単独布教にも出て苦勞の道歩んだ。大阪から都築氏と宮崎方面に布教に行こうとしていたとき、「お前は行ってはならん。笠岡へ行

け」と芦津の初代に言われて笠岡の上原家に入婿した。高知や芦津の積極的な布教活動の中から笠岡に来て、少しまだるい思いがしたのではないかとも感じられる。初代の温かい信仰にのみ支えられて、自らの信仰の教理的切磋琢磨のあまりなかった状態の中、初代は笠岡支教会設

立と共に教線を十講社に分け、それぞれに責任者を配して自主的な布教伝道を促した。笠岡設立の翌年、玉島、福山、高屋、神邊の四布教所が開設され、上級・部内という組織が笠岡教団にも誕生する。そうした時旬の流れの中で、ただもたれ掛かって育てて貰う信仰から自立的に自らが求め広めていく信仰に変わっていかねばならない、そういう大切な時代に二代会長は居合わせてくれたのである。

その理の仕込みについて、三代会長夫妻の口から語ってもらう。昭和四十六年五月行われた二代会長五十年、二代会長夫人十年祭後の二人の記念講話からの抜粋である。

「・・・話は後先になりますが、二代会長はこうした難関の中(明治二十八年の教会普請)、つねづね役員を集めて会議を開きましたが、その会議はこうしようああしようという会議ではなく、いろいろの御仕込みを下さった。時にはおさしづのお言葉の意味から、だんだんと役員自体にお仕込み下さる。ですからその会議は一日では済まないのであります。時には二日、時には三日、朝から始まりまして昼、昼ご飯食べて午後、夜はまあ休んでくれ。翌日起きてすぐに

大教会本年心定め

- 初 席 者 数 279人(33人)
 - よ ぶ ぼ く 数 217人(19人)
 - 修養科修了者数 135人(6人)
 - 教人登録者数 114人(0人)
 - 参考) 教人資格講習会 (1人)
 - 教会長資格検定講習会 (3人)
- (括弧内は1月1日～5月31日)

記念祭までに心定めを完遂するよう
つとめさせて頂きましょう

また会議というような事です。その間にだんだんと理を仕込んで下されたのです。又二代会長が、芦津大教会の役員として沖繩の教会へ巡教した時が御座いました。その時には教会で十柱の神名の御守護の理合いを一柱ずつ毎日毎日、今日は一柱翌日は二柱目、いわゆる月様、日様あるいははくにごみこと、月よみのみこととい

うように、一日に一柱ずつ話して、七柱の話が済みましたらその翌日よいよ船が出るという時でしたので、それ以上は話がなかった。当時の沖縄の会長さんなり役員さんは、「惜しい事や、上原先生は七日間に一柱ずつお話しせられて、ああしたようなお仕込みは、もう二度と頂く事が出来ないのではないか」というように残り惜しく思っておったという事は私は聴かして頂いたのでございました。これほどに教理に精通して下さいてありました。信念の上についても人よりも抜きんでて下されていたという事を、しみじみ思わして頂くのです。

ところで大正十年五月頃から身上おもしろくなく毎日役員諸氏を集めているいろいろ相談をしておられたのですが、六月一日に私を呼ばれた。どういう御用ですかと尋ねましたら、「これから直ちに会長任命の願書を出しなさい。教務支庁の方はちゃんともう手続きは済んでいるから、芦津大教会長さんの御印を頂いてそうしてお願いますように」こういう事でありました。私はそうしたような事は知らんものですから、「会長変更という上については、今日でなくて

も後日でいいのじゃ御座いせんか。それよりも何とか身上助かって頂きたいというのが我々の心ですから、どうぞその心になって頂いたらどうでしょうか」と言いますと、「いいや、そうではない。わしは今度御守護頂いてそうしてまた勤めさせて頂くという事ができたならば、もうこの会長は譲って芦津大教会の専務理事としてつとめさせて頂くんや。また身上御守護頂かなかつたならばや会長は譲らなければならぬ。しかも会長の理というものは息のある間に譲り渡しをさせて頂くところに行くものである。出直した後で会長を譲るといような事では、誰になるやらかれになるやら。本当に会長の理は続くという事でなければならぬ。だから存命の間に会長を譲ってこそ理は続くのである。わしは今も言うように、御守護を頂いたら芦津大教会の専務理事として勤めさせて頂く。そうしたら会長は当然譲らなきゃならぬ。出直すという事になっても、その順序を踏まなきゃならぬ。だから今日即刻本部にのぼってお許しを頂くんや」こうしたような御仕込みを頂きました。私は会長の理というものは本当にそうし

た尊いものである。息のある間に譲る、渡す、受け取る。そこにこそ本当の譲り渡しがあると、いう事を聴かして頂きまして、「いや、私はそういうような事を考えておりませなんだ。申し訳なかった。それではお言葉に添わせて頂いて今日のぼらせて頂きます」と答えました。「じゃ、その心が治まったら会長の理は今日かぎり、わしからお前に渡すよ」とおっしゃった。・・・」

講演はまだ続くのであるが、理に適った思いは神様が待って下さっていたかのように素早く動く。一日午後十一時芦津へ到着、翌二日おちばへ、午後二時任命願お運び、三日朝、芦津の会長様、宮田善一氏と共に三代会長は笠岡へ帰着した。「そんな事(このように速やかに)お運びがある事)、滅多にあらへんねやで」と語ってくれた三代会長の声が、未だに私の耳に留まっている。

思えば二代会長の理に生き、理を運ぶ生き方は、そのまま三代会長に受け継がれていく。

三代会長夫人の記念講話は次号に掲載させて頂く。
(笠岡史料部長)

育てる側の成人と

息の長い活動を

少年会縦の伝道講習会開催

少年会笠岡団(中島誠治団長)は5月21日、

梅谷大一先生(少年会本部委員・船場大教会長を講師に迎え、大教会5月次祭後に「縦の伝道講習会」を開催、役員、部内教会長、よふぼく、信者ら多数が受講した。

笠岡団として今年はこどもおぢばがえり1千800人の帰参と全隊からの参加、また各教会での「おとまり会」の実施を目標にしている。講習会を通し教会活動の源となるよう開かれたもの。



縦の伝道の大切さを話される
梅谷先生

梅谷先生は少年会本部の活動方針、教会おとまり会の実施を、自教会での例を挙げ「少年会活動を推し進める為にはまず育てる側の成人、そして粘り強く息の長い活動が必要」と縦の伝道の大切さを話された。講話要旨は次の通り。

●縦の伝道に対する心構え

子どもに対するにをいがけ、布教は大変なことである。子どもは親の信仰姿勢を見て育つが、信仰の喜び迄は伝わらない。言わなくても分かるだろうかとか、言うとな顔をするので、今は言わなくてもいいと勝手に判断するが、かける言葉が大事である。

●おまもり

徳やご守護は目に見えないから実感はわからないが、唯一目に見えて実感出来るのがおまもりだ。教祖と一緒にいて下さると思えば有難く喜べる。家族皆が身に付け日々感謝して通らせて頂くのも信仰実践である。

●教会おとまり会

天理教少年会は活動方針として「子ども達を教会に繋ぎ、親神様への感謝の心を育もう」と定めている。具体的には「教会と子ども達を繋ぎ親神様のご守護と教祖のお導きにお礼申し上げ、更にはそのご守護にお応えしておつとめやひのきしん

などを実践し、子どもが率先して教えを身に行える様に育てることを活動の柱」としている。

おとまり会は教会長が少年会員と寝食を共にする為、距離が縮み教会の将来を考えると有意義な活動であり、賑やかな教会、家族の団欒が味わえる教会にする為には、教会おとまり会を行うのも一つの方法であると思う。

●信仰の喜びを伝える

子どもに信仰の喜びを伝えることが縦の伝道だ。ただ信仰を伝えるだけでなく、喜びを伝えなければ縦の伝道は成り立たない。

教祖は口で伝え、筆で記し、万人のひながたを通って見せ、それでも分からない人には何度でも優しく自ら身を以て教えられた。信仰の喜びを伝える側にある私たちには誠に有難い手本ひながたである。

●育成者の心構え

7月26日から8月4日迄、こどもおぢばがえりが開催される。私たちは子どもたちに信仰を写す絶好の機会を与えられている。真柱様は今年の年頭幹部会で「少年会の活動は、子どもがよふぼくになって陽気ぐらしの為に働く様、成長することを願う活動するであります」と改めて少年会活動の目標をお示し下さいました。活動を推し進める為にはまず育てる側、育成する側の成人、そして粘り強い息の長い活動が大切である。

ENGLISH SEMINAR

～ 第69回英語講習会 ～



今年も外国から先生が来ます。会話を中心に
役立つ英語を勉強しましょう。

初めての人、大歓迎！英語が好きな人も、そう
でない人も明るく楽しく 英会話を勉強しましょう！
昨年から、にをいがけに役立つ「布教英会話クラ
ス」も始めています。可能性が世界へ拡がるかも
しれませんよ！



[募 集 要 項]

- 期 間 : 8月6日(土)午前9時受付～7日(日)午後3時ごろ解散
受講 対象 : 小学4年生以上、中学生、高校生、大学生、一般
受講 御供 : 1500円(宿泊費、食費、受講費など、全て込み)
持 参 品 : 英和、和英辞典(あれば)、筆記具、着替え、洗面具等
プログラム : 少人数による英会話学習、パソコンによる英語学習、
映画鑑賞、英語ゲーム、おつとめ、講話、ひのきしん等
(復活！テーブルマナーの勉強)

尚、詳細はスタッフの 上原志郎 Tel 0865(66)1311
吉岡誠一郎 Tel 086(282)0550
もしくは、大教会までお尋ねください。

(御連絡下されば、当日、JR 大門駅まで送迎いたします。)

◇ 主催 天理教笠岡大教会 海外部

714-0066

笠岡市用之江377 Tel 0865(66)1311



台湾に続き

伯・米へ巡回

海外部

静岡のクルセイロ・ド・スール

布教所(ブラジル)へ

海外部巡回

去る五月一日、私は静岡にある稲倉分教会所属クルセイロ・ド・スール布教所の祭典に巡回の機会を頂きました。

布教所は東名高速道路菊川インターよりほど近い住宅地にありました。ゴールデンウィークの渋滞の中で遅れ気味で到着した私達を北川ケンジ所長をはじめ皆さんが迎えて下さいました。布教所内はポルトガル語と日本語が飛び交い、日本に居ながらブラジルに行った様な気持ちになりました。この巡回にあたり、ポルトガル語に翻訳して頂いた海外の信者さんに向けて大教会長様のお言葉を皆さんに伝えさせて頂く為に、数日前より部長と分けて勉強させて頂きました。



月次祭の後で

年のせい(?)にはしたくないのですが、学生時代に語学を学んだ時のように言葉がなかなか耳に入って来ず少々苦戦しましたが、睡眠学習の甲斐あってか、もちろん布教所の皆さんが温かく気を長く持って耳を傾けて下さって、どうにかそれらしく読ませて貰う事ができました。

この巡回に行かせて頂いて、私の心の中にいくつかの嬉しい発見がありました。日系人とはいえず、生まれ育った地ブラジルより日本に來られ、親よりの信仰を素直に自信を持って通られている姿の中に、今私達が忘れてきているのじゃないかと思う懐かしい感覚、初代の通られた容易ならぬブラジルでの道の子供達が陽気に受け継ぎ又後の代へと自然に繋いでいる姿がおつとめを通してよく感じられました。

手狭に感じられるほど参拝場から人があふれ、おつとめ、手踊りの歌声も鳴り物の音色も本当に陽気に勇んでおられました。住宅街にあることも忘れる程賑やかで、私も手踊りさせてもらう最中、そして終わっても心がわくわくするような気持ちで一杯でした。初代の通られた道、信仰の元一日が子供達の心にしっくりと伝えられる中に家々の陽気

な心をつくる素があるように思われる時、ただ今の百二十周年に向かう旬に、改めて自らの心作りを見直そうとこの巡回を通じて感じさせて頂きました。

この日布教所に集まった方々は、所長さん家族、親戚、友人など日系四世、五世、六世の32名の方々でした。距離などの都合があると思いますが、六月の別席ひのきしん団参、そして記念祭に一人でも多くの方にご参拝いただき、共に道を通る喜びを味わわせて貰えることを願っております。

(海外部員 上原 千枝子)

アメリカ巡回で感じたこと

五月五日から十三日まで海外部長・上原志郎氏とともにアメリカを訪れました。今回の目的は、笠岡大教会につながるアメリカ在住のよふぼく・信者の方々に、大教会の創立百二十周年記念祭にお帰りいただけるようご案内をすることにありました。大教会長様のメッセージ(英文・和文)を携えて以下三箇所にお邪魔しました。

- ① 上原素雄氏(ニューヨークジャージー笠岡布教所後継者宅)・・・二泊

サボテンで有名なアリゾナ州フェニックス在住。エルビア夫人・愛美・真由美ちゃんの四大家族。真由美ちゃんに二人で三回ずつおさづけを取り次ぐ。百十周年記念祭に駆

けつけた素雄氏は少なくとも今回の記念祭にも参加してくれそう。最後の朝はみんなでおつとめをする。

② 上原眞雄先生(ニューヨークジャージー笠岡布教所長)宅・・・四泊

ニューヨークのマンハッタンからロングアイランドレイルロードで約一時間。ボールドウィン駅から徒歩四十分の住宅街に位置しており、個人的には一九八五年に初めて泊めていただいで以来四回目の訪問。先生も奥さんもまだ現役で仕事をされており、その合間を縫って我々の話を聞いて下さる。またここから今回お会い出来なかった人達に、電話や手紙で連絡をする(志郎氏)。先生も奥さんも信者さんを連れて記念祭には参加してくれると思います。

③ トダロウデイル・ノリコさんご夫妻宅

・・・一泊
ニューヨークのマンハッタンからメトロノースレイルロードで約一時間。スタンフォード駅から車で約十五分のコネチカクト州ノーウオーク在住。緑に囲まれ



上原眞雄先生と



素雄氏家族と



トデーロ夫妻と



セントラルパークで12下りの後で

た閑静な住宅地でニューヨークもそうでしたがそれ以上に八重桜やハナミズキが見事に咲いていました。前回の海外部の訪問から数えて十八年ぶりの訪問。デイルさんのご高齢の両親が体調優れず、記念祭出席はちょっと難しい感じでした。

今回お邪魔した三ヶ所のお宅の皆様方の心よりのおもてなしに感謝しています。十一月三十日の記念祭に大教会でお会いできることを楽しみにしています。

最後に今回の巡回で感じたことをいくつか述べたいと思います。

(一) 笠岡大教会にはカリフォルニアに約五十年前から、ニューヨークには約四十年前から直轄の布教所が存在しています。また、よふぼく・信者の方々もアメリカ各地にいらっしゃいます。日本でもそうですが、信者さんに対して何もアプロー

チせず放っておけば信仰も人間関係も途切れてしまいます。記念祭だから教祖の年祭だから笠岡へ、おぢばへと言うだけでなく、こちら(大教会サイド)からもっと頻繁に足を運ぶ必要があると思います。大教会としてのビジョンが問われています。

(二) それと並行して人材を育成する必要があります。

(三) そして是非、大教会長様にアメリカをはじめ海外へ足をお運びいただきたいと思えます。

最後になりましたが、今回のアメリカ巡回を通して、日本人・日本文化の素晴らしさを改めて感じました。しかし「世界一れつをたすけるために天降った」との立教のご宣言を思うとき、「世界」を視野においた布教の必要性も感じます。笠岡大教会内で、海外部員に限らず海外に対する議論が盛り上がることを期待します。

(海外部員 吉岡 誠一郎)

笠岡の学生 集まれ！

おぢば管内の学生の集い開催

学生会

学生担当委員会(吉岡誠一郎委員長)は5月8日(日)、笠岡詰所で午前10時から午後3時半まで「おぢば管内の学生の集い」を開催、学生13人、スタッフ2人が参加した。

おぢば管内の笠岡大教会に繋がる学生たちが集まり親睦を深めようと開かれたもの。今回は学生が中心となって行われた。

大教会長様のお話し、バーベキューでの昼食、ゲームなどの親睦行事を楽しんだ。

学生の集いに参加して

▼▼▼ 福芦分教会 竹本 裕 貴

今回、学生が中心となって「おぢば管内の学生の集い」をやらせてもらいました。まずは、スタッフに集ってもらい管内の各高校の寮を回り笠岡の学生に声を掛け、行事案内をしました。初めて見る子もいて、寮回りはとても大切な事だと改めて感じさせてもらいました。

そして行事前日、スタッフが集まりバーベ

キューの買い出し、管内生が喜んでくれるようなゲームなどを考えました。何人来てくれるか分からないので何をしたら良いのか、何をしたら楽しんでくれるのかスタッフで練り合ひし決め、そういった事がこれから学生会をしていく中で勉強になる事でもあります。

当日、スタッフは開始一時間前に集まり、バーベキューで食べる野菜などを準備、セッティングしました。時間となり、最初は大教会長さんのお話しを聞かせてもらいました。僕はその日の司会としてやらせてもらい、初めて大教会長さんの前で一言言わせてもらったので緊張は半端ではなかったです。大教会長さんのお話を目の前で聞かせてもらったのは初めてだったので、ありがたい気持ちと学生に分かりやすいようにお話下さったので、僕もすごく為になり、管内生もすごく為になったのではないのでしょうか。

お話が終わりましたら、みんなでワイワイとゲームをしました。僕が思っていた以上に笑顔で楽しんでくれたのですごくうれしかったです。これが学生会だと思いました。ゲームが終わり、お待ち兼ねのバーベキューが始まりました。学生から「おいしい」「食べ放題や」「うまい」って声を聞いていると僕まで本当にやって良かったな、嬉し過ぎて仕方なかったです。食べた後は駐車場で鬼ごっこして、学担の先生が「元気やなあー」と言

うぐらい走り回り、汗だくになってまでやりました。

僕が感じた事は一歳二歳しか変わらない子供が素直に喜んでくれ、僕まで元気をもらえるって学生会にしかないと思うんですね。

僕が学生会がやりたいと思ったのは、直属リーダー講習会に行ってからです。各直属の委員長さんスタッフから色々な話を聞き僕はすごく影響され、学生会って素晴らしいと思いました。最初にやった事はスタッフ集めから始め、顔合わせをし、僕が学生会への気持ちを伝え、集まってくれた子達の想いを聞き学生会、行事を造っていきたいと想いが一致したので学生会をやって行こうと思えました。

初めて学生で考えさせてもらった行事は春学(註)での直属アワーでした。本当に内容決めは難しく何日もスタッフで集まり話し合いました。行事当日は思った以上に人数が集まり、すごく喜んで帰ってくれました。

学生会は本当にやるべきだと思うんですね。直属の繋がりは将来お道を通る者に絶対必要な事だと思います。若者が、集い合ひお互いに刺激し合ひ、若い時にしか出来ない事が学生会の中にはあると思います。これからは僕は学生の時にしか出来ない学生会を頑張りたいと思います。

(編註) 「春学」Ⅱ「春の学生おぢばがえり」

▼▼▼ 上父分教会 岡 秀明

今回、おぢば管内の学生の集いに参加させていただき、前々から親しい人もいれば、初めて接することになった人もいて、少人数ではありましたが、大きな期待とちょっぴり不安を胸にこの会が開催されることとなりました。

まず最初に、大教会長様よりご挨拶をいただきました。大教会長様は、ここに集まった学生は親神様の何らかの思召しにより集められたわけで、この中にはここに来たくて集まった人。また来たくなかったけど親のすすめでここに来た人。それぞれ理由は違えど親神様の思召しによって集まったわけですし、来たくてもこれなかった人もいるのだということを考えて、日々の勉強に取り組んでほしいということと、三月十一日に起こった東日本大震災のことについてお話し下さいました。今回起こった震災は二ヶ月たった今なお、被害は拡大しつづけています。天理教としても災害救援ひのきしん隊を派遣させていただいたり救援物資を送らせていただきました。おぢばでも三日間にわたり、正午に神殿に集いおねがいつとめをつとめさせていただいたり各々によるおねがいつとめをさせていただいたりしました。



大教会長様もにこやかにご臨席



少し照れながら歓談する参加者たち



お待ち兼ねのBBQ

そして、みんなが被災された方々の一日でも早い助かりを願って日々を通らせていただいている、といった内容の話しをいただきました。なかなか聞くことのできない大教会長様のお話を聞くことができ、またお話ししていただいたことを胸におき日々を通らせていただこうと思えました。

大教会長様のお話しをいただいた後はスタッフの方が考えてくださったゲームをしました。少人数ではありましたがみんな仲良くまた楽しくゲームに参加できていたのでよかったですと思います。

今回開催されたおぢば管内の学生の集いは初めて学生が中心となり開催された行事であったと思います。大教会長様のお話しをいただきみんなで

ゲームをして盛り上がり最後はバーベキューを行い、楽しい一日を過ごすことができました。この会を企画してくださった先生方や、学生のみなさん、ほんとうにありがとうございました。

このような行事を行うことで、同じ大教会に所属して管内の学校に通っているのに顔も知らないといったこともなくなるでしょうし、友達の輪もどんどん広がってくると思います。もし、可能であるならば、これからも、このような行事を開催していただけたら、うれしいと思います。今回は学生のためにこんなにも楽しい会を開催していただきました。本当にありがとうございます。次の会も楽しみにしたいと思います。

記念祭雅楽奉仕に向けて

雅楽講習会 開催

雅鶯会

雅鶯会(中島誠治楽長)は、5月30日・31日と大教会に於いて雅楽講習会を開催した。郡山・兵神・名東から3人の講師を招き、雅鶯会員13名が参加して創立記念祭にお供えする曲目(大食調)を中心に



仕上げの合同演奏する参加者

に基本作法も含め熱心に指導を受けた。

30日午後1時30分からの開講式の中で楽長は、後継者を育てる難しさを話し、教える側の技術をしっかりと学び記念祭には立派な雅楽奉仕ができる様有意義な時間にして下さいと挨拶した。

その後、31日の昼迄は各管に分れての管別練習を行い、昼から三管始め、打物・弾物を入れての合同練習をして午後2時40分に閉講した。

婦人会活動の力に!

委員長後継者講習会開催

婦人会

婦人会笠岡支部(上原きよ子支部長)は5月31日、大教会で立教174年委員長後継者講習会を開催、11人が受講した。

同じ立場をお与え頂く者が年に一度、顔を合わせて話し合い成人の糧とさせて頂くとうと毎年開かれているもの。

上原同支部長は「大教会は創立120周年、婦人会笠岡支部も創立100周年という節目の旬を迎える今日、大切なことは教えを身近にして親の心に溶け込んで、まず我子に信仰を伝えていくこと。そして今は大変だなあと思うことでも、今、一生懸命つとめることで将来、担わなければいけないご用



声高らかに神名流しを行う参加者

を頂いた時、親神様にお働き頂ける基になる。教会の上、育ての上に苦心をしてこれからの婦人会の動きの力になって頂きたい」とあいさつ。

引き続き、JR大門駅から大教会まで神名流しを行い、その後、参加者を2班に分け○支部長のお話しを聞いて○大教会創立120周年記念祭に私たちの出来ること——をテーマにねりあいをした。最後に大教会内の清掃ひのきしんを行い閉会した。

こかん様につづく会様 開催

婦人会笠岡支部 女子青年部

女子青年(上原宏恵委員長)では、6月4日、5日と大教会で「こかん様につづく会」を開催した。おちばでの女子青年大会に向けて少しずつでも成人させて頂く為、3年間で3回に分けてテーマを作り企画。

第1回目として今年は、「天理教の疑問を解決します!」とのテーマで行い、参加者30名(会員23名/婦人会担当者7名)が寄り集まった。



ちょとはなしの手振りを交えて
元の理のお話しをされる支部長様



熱心に耳を傾ける参加者



一番の笑顔が見られた手巻き寿司



婦人会担当者らの面を付けて踊り
参加者を笑かす昼食の余興

沢山の会員さんが参加して下さい、雰囲気がよく良い中、大笑いしたり、真剣に考えたり、自分の信仰を振り返ったりとても楽しい時間になりました。支部長様のお話がとてもわかりやすく、みんな胸のつかえがスッキリして、やりがいがあった会となりました。
全てスムーズにいったのも、本当に全力のサポートを下さった担当者の奥様方のお陰だと思えます。来年も沢山の参加者をお待ちしています。
(女子青年部委員長 上原宏恵)

プログラム

6月4日

- 13:00 受付開始
- 30 開講式・オリエンテーション
- 14:00 アイスブレイク
- 15:00 ひのきしん(草取り)
- 40 つぼこの部屋
(テレビ番組風にテーマの投げかけ)
- 16:30 支部長様お話し
- 17:30 手巻き寿司パーティー
- 19:30 夕づとめ
花火
消灯

6月5日

- 5:00 朝づとめ、朝食、休憩
- 7:45 昨日のふりかえり
- 8:00 ねりあい
- 10:15 支部長様お話し(質疑応答)
- 11:20 ワンポイント折り紙講座
- 30 昼食、デザート争奪戦
- 13:30 閉講式

東日本大震災救援活動 第2次隊

笠岡大教会災害救援委員会では、4月末日を区切りとして募っていた救援物資を、被災地福島県いわき市に4月に引き続き搬送し、現地でのひのきしんを行った。

第2次隊は、5月15～18日の日程で出動。以下の9名が参加した。(森本忠善・渡邊泰造・山田睦浩・谷本光司・上原繁次・中村剛史・西村由理子・西村理人・西江孝文)

現地1日目となる16日は、福島第1原発から約37キロのいわき市四倉で、災害ゴミの分別、収集場への運搬などを行った。四倉では、地元の教友などが自治会と連携し、ひのきしんセンターを設置。この日は、笠岡の他、牛込、滋賀教区の有志、地元の教友など31人で作業を行った。ボランティアの手が足りない町で、教区・系統を超えて一手一つに汗を流す事ができた。また、作業後には、放射線量を測定するスクリーニングというチェックをそれぞれ受けた。(全員問題無しです)

2日目は、いわき市錦町にある「子どもの家保育園」に物資を搬入し、施設内での活動を行った。

同施設は、ダウン症候群の子ども達が通っている所で、地震で屋根の瓦が一部落ちるなどしていた。一行は、屋根の上での作業や除草、紙芝居読み聞かせなど手分けをして、活動を行った。

この度は、大きな余震に見舞われる事無く、無事に務めることができた。心寄せ下された皆様に感謝いたします。今後の活動は、現地の状況を踏まえて検討していく予定です。

救援活動に参加して

品治分教会長 渡邊泰造

第2次救援活動が5月15日から18日にかけて行われた。1次、2次目とも参加させていただく機会をいただき、微力ながら何か出来ることはさせていただけたいらと思ひ参加させて頂きました。

1回目の時は地震発生から1ヶ月で震度6クラス之余震が続く中での出発、皆の行かせて頂いたのと熱い思いでの出発ではあったがやはり道中そして近づくにつれはりつめる緊張感の中、翌朝いわき市に到着。海岸沿いに出るとテレビで見た光景そのままを目の当たりにし言葉を無くした記憶が消える間も無く災害救援活動第2次隊のお声を頂き、すぐさま行かせて頂く決意を固めた。今回は女性1名を含む9名にて前回同様夕方出

発。今回は目的地に近づくにつれ自衛隊車両をよく見かけたが今回は遭う台数かなり少ないよう

物資名	数量	物資名	数量
1 タオル	232枚	15 ジャンパー	7着
2 バスタオル	58枚	16 ズボン	7本
3 水	61ℓ	17 服	7着
4 米	40kg	18 靴 下	500足
5 箱ティッシュ	136個	19 絆創膏	5箱
6 トイレットペーパー	6パック 2袋	20 消毒薬	5本
7 タオルケット	5枚	21 脱脂綿	1袋
8 毛布	11枚	22 マスク	2箱
9 サラシラップ	6本	23 ポアシャツ	4枚
10 カップラーメン	42個	24 ハーフケット	2枚
11 袋ラーメン	20袋	25 肌布団	2枚
12 キッチンペーパー	1個	26 洗剤	8箱
13 ハンドソープ	1本	27 薔薇の苗	10本
14 洗剤セット	1箱	28 ガソリン携行缶	1缶
		29 水タンク	3個

に感じた。が仮設住宅に使われるような材料を積んだトラックをみかけるようになり、少しずつ復興の兆しを期待しつつ9時過ぎ、今回もお世話になるいわき布教所長の安齊さんと長谷川さんの案内のもと長谷川さん宅に到着。

暖かいコーヒーを頂き息を吹き返し、ひのきしん現場となる現場から30数キロ離れた四倉町に麴町大教会と滋賀教区の教友達と震災ゴミの仕分けと土砂の入ったどのう袋の運び出しなどのひのきしんを行った。

仕分け後運びこんだゴミの集積場にはそれこそ山のように積み上げられた量に唖然とするばかり



物資を搬入



災害ゴミの分別作業



協力して作業を進める



除草ひのきしん

で、しかも放射能の影響で処分方法も決まってい
たこと。前回には至る所の道端に瓦礫の山が
あったが、今回片付きつつあるように見えるもの
のまだまだ時間がかかると実感した。

ひのきしん終了後には放射線量を測定器で測る
スクリーニングを行い計器の針も全く振れること
なく安心感と風評被害の大きさを実感した。

その後、長谷川邸近くの温泉に入浴、前回水道
もとまっていたため汗を流せる喜びに改めて水の
ありがたさに感謝、たけのこや初めて口に「こ
しあぶら」など山菜をはじめたいへんご馳走にな
り明日の活力にして就寝。

翌日はいわき布教所を参拝後布教所長の息子さ
んの紹介でダウン症の子どもの世話をしている子

供の家保育園にて救援物資の搬送と除草ひのきし
んに紙芝居、屋根の補修などをさせていただき、
たいへんよろこんでいただいた。

作業は昼で終了し昼食を頂いて1日も早い復興
と安心した生活に戻れるよう祈りつつ帰路へ。間
もなく雷雨になり見計らったかのような雨にすべ
て予定通りさせていただけただけに感謝。

途中足柄のサービシアにて汗を流しに休
憩、出発して間も無く雲がさっと引き、夕日を背
に富士山の姿を見ることができ、ごほうびを頂い
た気がした。その時ふと前回いわき布教所に参拝
させて頂いた時に日めくり陽気カレンダーが3月
11日のままだったのを思い出した。そこには「富
士山でも指1本でも隠れてしまう目の前の小さ

な事に捉われると先の運命がわからぬ」と……。

▼▼▼▼ 吸江分教会 西村 由理子

3月11日震災以来、ずっと救援に行かせて頂き
たいという思いでいました。3月23日に、遠縁に
あたる福島教会へ主人が行くことになり、吸江
委員会や地域の婦人会、職場の方に声掛けし、ワ
ゴン車いっぱい救援物資を届けさせて頂きまし
た。

その後、4月に救援のお声をかけて頂きました
が、仕事の調整がつかず、物資の提供の声掛けを
していく中で、ある未信者の方から、今度現地
に行く時には、ぜひうちの息子を連れて行ってもら
いたいと頼まれました。



集積場の木くずの山



作業後のスクリーニング



紙芝居を披露



1日共に活動した教友と

その話を聞いて自宅へ帰った直後、その子と友達である就職したばかりの息子から、「大阪から帰ってもええかなア?」という電話があり、同じ身上をかかえた上からも、親神様が引き寄せて下さったと感じました。

また、出発するにあたっては、信者さんから、娘さんが身上をかかえながら、一生懸命育てられたミニバチをバザーに出し、その売上げを義援金にして下さいとのお話があり、ぜひ被災地へも届けさせて頂くとの事で、苗木10本を「子供の家保育園」に持って行きました。その方は、東北の人達のためにとの思いでがんばる中、段々元気になっていくそうです。

現地に入ると、亀裂が入り、デコボコになった

道路や、骨組みだけになった家屋、持ち主の物であらうカバンや写真等が中に残ったままの自動車が目に入り、ああ、やっぱり現実なんだと実感し、涙があふれました。

ガレキの分別作業や土の積み込みには、他系統や他教区の方々が、笑顔で一生懸命とくりくんでおられ、お道の教友として誇りに思いました。

そんな姿を通して、息子の友達は、一ヶ月位救活活動に行ってみたくとか、同級生には「お前らも1回行って来い!」と、はっぱをかけているそうです。

そして息子は、いろいろな方から励ましの声を頂き、この度修養科へ入学させて頂きました。救活活動を通して、成って来た事すべてに、親神様

が先廻りしてお働き下さっている事を実感し、今感謝の気持ちでいっぱいです。

今回おじゃました、長谷川様宅では、お布団でゆっくり(いびきの大合唱もありましたが...)休ませて頂き、いわき布教所の安齊所長様には温かいおもてなしをして頂き、本当にありがとうございました。

また、青年会員の皆さんには、マイクロバスの運転もおまかせで、あまりお役に立てなかったかなアと申し訳なく思っています。

これから先も、息の長い支援が必要とさせていただきます。いろいろな形で、その想いをつなげて行きたいと思しますので、みなさん一手一つにがんばりましょう!

談話室



専修科の日々について

東福山分教会 枝廣 美可

私は現在、おぢばにある天理教専修科に通わせて頂いています。天理高校第二部から、専修科に進学して、今年二年生になったので、おぢばの生活も六年目となりました。専修科生の一日は、本部の朝づとめから始まります。

教祖殿でのまなびもつとめさせて頂き、第一食堂で全員で朝食を頂きます。その後、学校での朝礼でおふでさき拝読、半下りのてをどりまなびの後、午前中は講義、午後からさまざまな実習先でひのきしんをさせて頂いています。「天理教専修科」という名の通り、一日中お道にふれて、お道を学べるこの環境において頂き、私が感じたことをつたない文章ですが書かせて頂きます。

お道では「女性は台」といわれます。私は昨年、女子一番組係を任命頂いています。女性としての通り方について、専修科に来てはじめてこんなに考えさせられました。専修科では、

芯となる男子一番から三番組係りがいて、女子一番、二番組係りがいます。私は二部の頃、部活のキャプテンや、寮の自治会、学年長など、みんなの先頭に立ってリードしていく立場を頂くことが多かったのですが、今、女子が台となってみんなを支えていくことや、芯となる人間に添うことを学ばせて頂く中に、色々なことを思います。講義の中で、女性の徳分はぬくみ、つなぎだと学んだのですが、私はこれは一体どういうことなんだろう、と考えました。難しいことは、まだ分かりませんが、単純に、私は「ぬくみ」イコール笑顔かなと思っています。私は人の笑顔を見たら、ほっとするし、自然と自分の顔もほころんでいることがよくあります。「つなぎ」について考えたときに、ぱっと頭に浮かんだのは、「不足は切る理。たんのうはつなぎ理。」という教祖のお言葉です。不足には、本当にきりがなくて、自分の心を切り替えるしかないと思います。苦しい中も喜んで通る、「たんのう」という通り方は本当に難しいなと私はいつも思います。ですが、警察に御苦勞下さるときも布教の為に、といそいそと出向かれた教祖を思い出してこんな通り

方は簡単に出来ないですが、それに近づく努力をしていかなければならないと思いました。

専修科の日々で、悩んだり、考えたりすることも多いのですが、私は、元を忘れずに、通りたいと思っています。私にとっての「元」は、親に喜んでもらうことです。現在進行形で心配や迷惑ばかりかけていますが、今、おぢばで勇んで通ることが一番の親孝行だと思うので、卒業して自教会に帰った時に役に立てるように、私はがんばりたいです。「頑張る」ではなくて、ニコニコ笑顔で、素直に低く、「顔晴る」のが私の目標です。読んで下さって本当にありがとうございます。

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌六月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「流」、笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

秀 詠 東悠分教会前会長夫人 田林 美智子 さん

かくあれと水の流れに道ささとる

新友 芦方布教所よふぼく 金谷 眞佐代 さん

有難や嬉し涙を流す日々

▼表紙の書

天場山分教会 役員 野津 正樹 さん

修養科終了生の声



修養科を修めて

廣町分教会 高橋伸吉(79才)

這えば立て 立てば歩めの おやごころ

にんげんをおつくり下されたおぢばで修養科に出さしていただいで生まれ変わらしてもらったように感じています。十全の守護に守られ、八つのほこりを戒められた天理の原点を学ばしていただき、そしてようぶくの最大の役目である、おさづけの理の拝戴もあり、これからの生き方の大きな節目となりました。

私の家は天理教の信者としては永いのですが積極的に関わったことはあまりございませんでした。私自身は今まで教会へはお供えだけさせていただくということにして三十数年おつきあいをしています。最近になって永年お世話になった地域の皆さん、友人、会社関係の方々に楽しく喜んでもらえるような生き方ができればと、いろいろ構想を考えていたところへ修養科の話があり、そこで三ヶ月の研修でいろいろ教えていただ

いてそのことが自分が考へていることに上積みされて役に立てばと思つて出さしていただくことになりました。

研修で教典を中心に様々な授業で習わしていただき目があったような気がしています。中でも一番感じたことは人間は生涯掃除をして切りをつけるということを繰り返して生きさせてもらっていること、もう一つは「こうまん」であります。今までいろいろな人や団体のお世話もさせていただいてきました。その際、私の言動が皆さんに気持ちよく理解されてきたであろうかということです。別に悪く批判された記憶はありませんが、修養科に入り、諸先生のお話を聞かせていただいでどこからかそういう気持ち湧いてきました。そこでこれからは人に接したり話しをする時にもっともっと気持ちを謙虚に低くもち、その時に修養科で湧いてきた、人間は生涯掃除だという話しができた私の人生にとって最高だと思つています。これからは、この掃除ができるかできないかということが自分の課題であります。

そのためにはまずひのきしんです。ひのきしんは目に見えるものと見えないものがあると思つています。ひのきしんは千種万態であると教えられたような活動でもひのきしんであると確信しました。本部員講話の先生も人がたすかるために、という話しをするのもひのきしんだと講話で述べ

られました。自分に見合ったささやかなひのきしんでも心さだめができていけば物心両面でお役にたつものです。その心さだめをする処が教会であり、教会へ運ぶということが元になり心の掃除がきちっとさせていただけけるわけです。

修養科の研修でも教会でのおつとめが一番大切なことだということを教えられました。そのことを自分の身に根づかせるためにも教会へ参拝しておつとめに励まなければなりません。修養科で研修中に大教会長様のお話しを聞く機会があり、おつとめは姿や形よりも心をこめてつとめることが大切である、また人をたすけてわが身たすかるということを解説して下さいました。両方ともそうだなと充分理解させていただきました。胸にきざんで実行させていただけたらと思つています。

これからは修養科や詰所の諸先生から教わったことを基本にして人様の気持ちを壊さないように接していくことに心掛けていきます。教養担任の先生方には大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

追記

今回は夫婦で出さしていただき、三ヶ月間車椅子に妻を乗せて自分が押して通学しました。車椅子を押すのも上手になりました。二人とも元気で修了することができ有り難うございました。これも皆さんのおかげで心から感謝申し上げます。

修養科感話大会にて

雲東分教会 三代 節生

今回の修養科では色々な事を学び、そして経験させて頂いた。特に、私のクラスである3組の代表として出させて頂いた感話大会は、生涯忘れられない思い出になりました。

担任の先生から「感話大会お願いできませんか?」と打診をされた時、正直、何故自分か?他にもっと良い話をしてくれそうな方が居るでしょう?と思ったのだが、やはり話がアフリカへ行き、色々と体験しているのが決め手となった様で、その時に思った事、感じた事を皆にも伝えてあげたら良いのではないかと、と言われ、それならばとこの場でOKの返事をさせてもらい、今、自分が思っている事、感じている事を書かせて頂き、当日を迎えました。

当日は、各クラス6人の代表の大トリという大役?では有りましたが、無事務めさせていただく事が出来ました。皆それぞれに思いの感話をされていて、自分の身上を通して感じた事を話す人、この修養科に来て、神様にもたれ助けて頂いたという人、未信者だったが、婚活にて天理教の人と出会い、夫婦となって入信したという人、等々、バリエーション豊かで、笑いあり、涙あり、感動ありとても素晴らしかったと思います。

かくいう私も、200人以上の大勢の前で話しをするという未だかつて経験した事が無い中で、自分のアフリカ体験を通して感じた、当たり前は当たり前ではないという事、そしてその当たり前に対して喜び、感謝をすることの大切さを話させて頂いた。特に「水、トイレ、食事」の3つは、生きていく上では絶対に欠かせないものであり、アフリカ生活の中でも苦労しただけあって、その思いもひとしおで、この3つに関しては特に強調して話しをさせて頂いた。

大会終了後には何人かの方から、早速試してみたい等の声を掛けて頂いたり、「おたすけの場として考えるように」との大会の主旨の思いの一つを結果的に少しでも実践出来た事も、出場して良かったと思わせて頂きます。

最後に、これを読んでいる皆さんも、普段当たり前だと思っている事をそのまま当たり前と思わず、その当たり前に感謝し、一日の内何か一つでも喜んでみてはいかがでしょうか。「喜べば喜び事が喜んで喜び集めて喜びに来る」という言葉があるように、

喜んだ分きつとそ
の喜びがいつか自
分にプラスとなって返ってくる事
と思います。



・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介
③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字)
題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。
俳句等は一句からでも結構です。

寄 稿 先

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

メール：tenkasa@yahoo.co.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



<実行委員会>

○別席ひのきしん団参

と き 6月25日(土)～26日(日)
 内 容 25日 13:00 神殿にておつとめ、別席
 終了後 境内地ひのきしん ※雨天時は回廊拭き
 19:00 記念講演(詰所)
 講師・川島一郎先生
 (甲賀大・勢津分教会長・三日講習会講師)
 26日 午前 本部月次祭参拝
 午後 別 席

○本年の心定め完遂に向けて行われるもので、参加目標は1,000人。

○ひのきしん担当者(敬称略)

・東ブロック	三島 衛	・西ブロック	横山逸郎
・福山ブロック	平盛秀年	・高屋ブロック	矢田哲一
・島根ブロック	余村 健	・久松ブロック	渡邊泰造
・上下ブロック	高田一弘	・府中市ブロック	山田睦浩

○スタッフは腕章をつける。

○毎月の「人づくり成果月別報告書」を提出して下さい。

<布教部>

○本部食堂ひのきしん

期 間 7月16日～31日 高屋ブロック

○こどもおぢばがえり詰所受入れひのきしん

期 間 前半 7月25日 昼食～30日 昼食、 7人。
 後半 7月30日 昼食～8月4日 昼食、 5人。

○天理時報の増部を!

<青年会>

○おやさとふしんひのきしん隊

期 間 6月1日～24日
 14人の入隊心定め達成しました。

<少年会>

○隊長変更届

未変更の隊は早急に提出してください。

<災害救援委員会>

○救援活動

期 間 5月15日～18日 いわき市
 救援物資搬送、救援活動

義援金 4月5日～5月23日分 ¥610,319円

大教会だより

◎弥高山分で創立100周年記念祭

弥高山分教会(岡崎和夫会長)では
 5月4日、大教会長様ご夫妻、役員
 先生を迎え創立100周年記念祭を執り
 行った。当日は晴天に恵れ、83人の
 参拝者が詰めかけた。

|| 辞 令 ||

准承事待遇 三代 温 生
 立教174年5月21日付



五月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一慎んで申し上げます

親神様の大きな親心を戴いて山や里の木々は青々と輝き 鳥たちは我が声一番と鳴き競い 生きとし生けるものが全てが厳しい冬を乗り切り新たな成長をしている喜びに満ち溢れております そしてその中に生かされ育まれていく私達人間が居ることを 改めて感じる事の出来る旬をお与え下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございます しかしながら世の多くの人は日々の生活に追われ常に遠くにある楽しみに心奪われ 目の前にある当たり前の有り難さに気付かず喜び感謝の心を失っております事は誠に残念でなりません 道にお引き寄せ頂きました私共はかしまのかりものの御教えに心を添わせ 日々喜び感謝の心一杯に朝に夕にと御礼申し上げます 一日一件にをいがけを心に御恩報じを念頭に たすけ一条の御用の上に努め励まして頂いて頂いております

その中にも今日の吉日は笠岡の理にお許し下さいました御祭日でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び感謝たすけ心も一入に 明るく陽気に勇んで坐りつとめてをどりを勤めて五月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には道の子供達が今日の日を楽しみに寄り集い 共にお歌を唱和し 同じ思いに伏し拝み 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げる状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて東日本大震災の被災者に対して 皆の真実の心寄せによりこれまで三度に亘って救援物資を届ける事が出来ました そのうち二度は救援ひのきしんもさせて頂きましたが 皆事故怪我もなく結構にお連れ通り頂きました事を お礼申し上げます。

又今月は直轄巡教をさせて頂きました 記念祭に向けての成人の歩みの再確認をすると共に大震災に込められた親の思いを思索し よふぼくの使命の重要さを再認識し成人の歩みをより推し進めて行く事を誓い合わせて頂きました

更には又 夏の子供おちば帰りに向け募集の活発化を促しかつ次代を担う道の後継者の育成を目指して本日祭典に引き続き 縦の伝道講習会を開催させて頂きます 子供たちを取り巻く環境は社会経済のみならず 心の分野まで悪化の一途を辿っております 心の荒廃に歯止めをかけるだけでなく心の豊かな社会を構築する一助になる事を願っております

加えて来月二十五日二十六日と別席ひのきしん団参をさせて頂きます 一日一件にをいがけの成人の歩みに弾みをつけ記念祭に向けての理作りとさせて頂く所存でございます

何卒親神様には「成って来るのが天の理」と句々にお見せ頂きたすけたいとの親心を信じ 凭れてたすけ一条の上に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上にも尚も自由の御守護を賜り 一人でも多くの人が日々の当たり前の有り難さに気付きたすけ合いの輪が広がって お望み下さる陽気づくめの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

II 教会指令 II

◎神殿建築及付属建物内部改造願

葦陽 分教会

☆鎮座祭 立教174年10月15日

☆奉告祭 立教174年10月16日

立教174年5月26日承認

◎第八三九期修養科

自 立教174年3月1日

至 立教174年5月27日

*教 養 掛

三ヶ月間 杉原 博之

(大教会役員)

明石市分教会長)

一ヶ月目 三島 順 教

(葦沼分教会長)

二ヶ月目 西村 彦一

(瑞雲分教会長)

三ヶ月目 矢田 哲一

(八尋分教会長)

*修 了 者

直轄 松田 祐亮

廣町 高橋 伸吉

雲東 三代 節生

宇津戸 松谷 修基

廣町 高橋 敬子

◎立教174年直轄教会定期巡教

府中市	上野	明石市	皆部	新山邑	輝美濃	照陽	吸江	東悠	海松ヶ岡	呉照	芳井	陶山	ひろさと	興明	金浦	摩耶	陽備	弥高山	鶴山	久松	島根	神邊	高屋	福山
中村	上原	大教会	上原	吉岡	大教会	中村	佐藤	大教会	吉岡	田中	田中	佐藤	吉岡	中村	中村	大教会	岡本	上原	佐藤	田中	大教会	大教会	田中	大教会
剛道	繁道	会長様	繁道	壽	義	邦孝	道孝	義	壽	一之	一之	道孝	壽	剛	剛	善	道	繁道	道孝	一之	長様	奥様	一之	奥様

東城	服部	島中	驛家	油木	葦陽	湯田原	備中	神昭	美之郷	錦備	笠晴
佐藤	大教会	岡本	大教会	上原	岡本	岡本	岡本	大教会	上原	大教会	中村
道孝	奥様	久善	長様	繁道	久善	久善	久善	長様	繁道	長様	剛

※訂正

先月21日発行の『かさおか 第50巻第5号』10ページ掲載の「別席ひのきしん団参」の記事中、「ひのきしん担当者、島根ブロック」が「三代 幸」となっておりますが、「余村 健」に訂正させていただきます。また、12ページ2段目「教人資格講習会」の見出しが「修了者」となっておりますが、3分の1期の履修になりますので「履修者」に訂正させていただきます。



”一本で二役！境目の無い遠近両用！今回限りの大特価！”

新聞折り込みの広告チラシのキャッチフレーズにつられ、数年前、遠近両用メガネを購入した。

日常生活にはあまり差し障りはなかったのだが、新聞を読む、また字を書く時は少々不便だった。食事の時、魚の骨が見つけられなくなり、ついに遠視用のメガネのお世話になることとなった。

だが、必要な時はかけ、そうでない時は外すという作業は案外、面倒臭いものだ。そんな時、先程の広告に出合ったのだ。

これで問題は全て解決したと思っただが、実際使用してみるとそうではない。矢張り境目はあるのだ。メガネの外側の部分はぼやけて見える。目的物に頭ごと向けて、そこで

ピントが合うのだ。車の運転時は特に注意が必要だ。右見て、左見てと頭を振って安全を確認する。雨の夜などは最悪だ。首振り運動から解放され様とメガネを取る。前方はよく見えるが、今度はスピードメーターが見えない。

それにひきかえ、私たちが親神様からお借りしている”目“の性能の素晴らしさ。遠く、近くの見づらさは多少あるとしても、眼球を動かすだけで左右を見ることが出来る。数えれば切りがない。

この度、日々の信仰実践の糧にと、道友社から「十全の守護」「八つのほこり」の教理の説き分けが両面に印刷された刊行物が頒布されることとなった。(6月5日付、天理時報に掲載)

単に文章として読むのではなく、今一度、「かしもの・かりもの」の教理を再確認すると共に、お貸し頂く親神様への御礼と今後の成人に向けての行動の一つとして利用させていただきます。

(あ)